

No. 446【2021年3月5日配信】

「工藤正市写真展一よみがえる昭和30年頃のくらしとまち」スタート（担当：工藤）

こんにちは！ 室長の工藤です。

いよいよ本日3月5日から、青森駅のそばにあるリンクモア平安閣市民ホールで「工藤正市写真展一よみがえる昭和30年頃のくらしとまち」が始まります。と、いってもこの原稿を書いている時点ではまだ会場設営の作業中ですが…。

先日2月19日付No.444で紹介したように、写真家・工藤正市さんは昭和20年代後半から30年代前半にかけて写真雑誌のコンテストに作品を応募していました。今回展示する写真はちょうどその時期に撮影したもので、敗戦から10年、まさに戦後復興期の青森を写し取ったものといっていでしょう。

今回の展示では、古川跨線橋附近、第三新興街、りんご市場、ニコニコ通、百万弗、青森駅、新町など市民ホールの周辺地域の写真を中心に70点ほどの写真を紹介いたします。

また、工藤正市さんは「人」にカメラを向けています。子守をする女の子たち、はだしで国道を走る男の子、古川跨線橋を肩を組んで歩く女の子の後ろ姿、魚菜市场附近に集まる大人たち…さまざまなシチュエーションのもと、復興期の青森市民の表情を活写しています。じっと見ていると、こうした人々が今にも動き出し、語りかけてくような感じがしてきます。これらの写真を懐かしく思う世代の方にとっては、心のなかで会話ができるかもしれません。



撮影：工藤正市

古川跨線橋で撮影された写真
(撮影：工藤正市 提供：工藤加奈子)

会期は本日から 28 日まで、開館時間は午前 9 時～午後 10 時です。多くの皆様に足を運んでいただくと嬉しいです。ただ、「コロナ禍」という時節柄、手指の消毒（手指消毒用アルコールは市民センターに入って右斜め前にあります）、マスクの着用をよろしくお願いいたします。とくに会場においては、ひとつのパネルに集まって「密」にならないよう、気持ちにゆとりをもって「工藤正市写真展」をお楽しみください。



写真展のようす